

悪性新生物、虚血性心疾患と脳血管疾患の通院者の就業希望状況：国民生活基礎調査の匿名データ解析

○ 川戸美由紀, 山田宏哉, 谷脇弘茂, 橋本修二

藤田医科大・医・衛生

### 【目的】

悪性新生物、虚血性心疾患と脳血管疾患（以下、3疾患）の通院者の就業希望状況について、国民生活基礎調査の匿名データを用いて解析した。

### 【方法】

2007・2010・2013年の国民生活調査の匿名データから、20～59歳の男性65,917人と女性67,902人を解析対象者とした。3疾患それぞれの通院者、および、通院なし者で、全体における就業なしかつ就業希望ありの割合とその年齢調整オッズ比と、就業なしかつ就業希望ありにおける希望の仕事の形態が正規職員の割合とその年齢調整オッズ比を算定した。年齢調整オッズ比はロジスティック回帰モデルで推定・検定した。

### 【結果】

3疾患の通院者ごとにみると、男性では、就業なしかつ就業希望あり割合はそれぞれ10.1%、7.5%と18.6%であり、通院なし者での割合（5.3%）に対する年齢調整オッズ比はいずれも有意に大きかった。女性では、就業希望あり割合は18.0%、18.9%と20.4%で、通院なし者のそれ（16.5%）に対する年齢調整オッズ比はいずれも有意に大きかった。男性では、就業なしの就業希望ありにおける希望の仕事の形態が正規職員の割合は61.5%、50.0%、48.8%であり、通院なし者での割合（69.8%）に対する年齢調整オッズ比は脳血管疾患の通院者で有意に小さかった。女性では、就業なしかつ就業希望ありにおける希望の仕事の形態が正規職員の割合は24.4%、5.0%、16.7%であり、通院なし者での割合（22.4%）に対する年齢調整オッズ比は悪性新生物の通院者で有意に大きかった。

### 【結論】

就業希望ありの割合は男女の3疾患の通院者ともに通院なし者と比べて大きく、3疾患の通院者に対する就労支援の重要性が確認された。希望の仕事の形態が正規職員の割合は男性の脳血管疾患の通院者で小さく、女性の悪性新生物の女性で大きく、3疾患の通院者の間で就労希望内容の相違が示唆された。